

第48回蒲郡市地域公共交通会議 議事録

1	日時	令和8年3月10日（火） 午後2時30分～3時45分	
2	場所	蒲郡市役所 303会議室	
3	出席者	委員 愛知工科大学機械システム工学科教授	村上新
		委員 名城大学理工学部社会基盤デザイン工学科教授	松本幸正
		委員 愛知運輸支局	原田光一郎
		委員 愛知県都市整備局交通対策課	石屋義道 (代理 森本恭平)
		委員 総代連合会会長	平野良則
		委員 形原地区公共交通協議会	藤田幸三
		委員 東部地区公共交通協議会	小田貞夫
		委員 西部地区公共交通協議会	倉橋勝良
		委員 三谷地区公共交通協議会	小田勝一
		委員 大塚地区公共交通協議会	山口俊明
		委員 西浦地区公共交通協議会	壁谷隆
		委員 塩津地区公共交通協議会	榊原関保
		委員 蒲郡市身体障害者福祉協会	神田元治
		委員 蒲郡市老人クラブ連合会	鈴木香代子
		委員 蒲郡市社会福祉協議会	竹内仁人
		委員 蒲郡市小中学校PTA連絡協議会	鈴木善晴（欠席）
		委員 NPO法人ブックパートナー	岡田有里子
		委員 蒲郡市ボランティア連絡協議会	山本なおみ
		委員 蒲郡市子ども会連絡協議会	坪井英幸
		委員 蒲郡商工会議所	小澤素生 (代理 青木宣貴)
		委員 蒲郡市観光協会	杉山和弘 (代理 高井知明)
		委員 名鉄バス株式会社	後藤泰之
		委員 豊鉄タクシー株式会社	鈴木英司
		委員 株式会社かねー自動車	黒木成美
		委員 名古屋鉄道株式会社	高井勇輔 (代理 内藤真一)
		委員 公益社団法人愛知県バス協会	小林裕之
		委員 愛知県タクシー協会	小笠原洋和
		委員 愛知県交通運輸産業労働組合協議会	壁谷政志
		委員 愛知県蒲郡警察署	磯貝篤
		委員 東三河建設事務所	奥谷敦史（欠席）

委 員	蒲郡市長	鈴木寿明
委 員	蒲郡市市民生活部長	大森康弘
事務局	蒲郡市交通防犯課長	磯貝友宏
	蒲郡市交通防犯課係長	伴文明
	蒲郡市交通防犯課主査	石川雄策
	蒲郡市交通防犯課主事	山村輝良々
地域公共交通計画推進事業受託事業者		三菱ＵＦＪリサーチ&コンサルティング株式会社 ２名

4 議題

(1) 開会挨拶

5 報告事項

(1) 蒲郡市内公共交通の利用状況について・・・・・・・・・・【資料１】

(2) 東部地区支線バスの停留所名変更について・・・・・・・・・・【資料２】

6 協議事項

(1) 第二次蒲郡市地域公共交通計画（案）について・・・・・・・・・・【資料３】

(2) 地域公共交通確保維持改善事業に係る計画変更認定申請について・・・・・・・・・・【資料４】

(3) 令和８年度蒲郡市地域公共交通会議事業計画、予算（案）について・・・・・・・・・・【資料５】

(4) 幹線バスの再編検討について・・・・・・・・・・【資料６】

7 その他

8 議事内容

(1) 開会

・ 出席委員が３０名であり、定足数に達しているため、蒲郡市地域公共交通会議設置要綱第７条第２項の規定により会議が成立すること、本日の会議が公開となっており、傍聴を希望される方がいることが事務局より報告された。

(2) 議題

・ 開会挨拶

名鉄蒲郡線について、みなし上下分離方式により令和９年４月から１５年間存続方針を決定し、現在費用負担などについて協議を進め、国の補助金の活用に向けて計画策定を進めている。バスについては、交通空白地の解消を進めてきて、塩津地区支線バスの運行開始により概ねカバーしたが、改めて幹線・支線の役割を踏まえネットワークの構築を進めていく。それぞれの立場から積極的なご意見を願います、とのあいさつがあった。

・ 議長より本日の議事録署名人として２名の委員が指名された。

(3) 報告事項

ア 蒲郡市内公共交通の利用状況について

・ 事務局より資料１に基づく報告が行われた。

〔質 疑〕

なし

イ 東部地区支線バスの停留所名変更について

- ・ 事務局より資料 2 に基づく報告が行われた。

〔質 疑〕

なし

(4) 協議事項

ア 第二次蒲郡市地域公共交通計画（案）について

- ・ 事務局より資料 3 に基づき説明が行われ、全会一致で承認された。

〔質 疑〕

（委 員）

- ・ 内容については、皆様と議論を重ね、事務局でも修正し問題ないと思うが、パブリックコメントで意見がなかったのは残念である。市民の特性か、実施時期か、十分な周知ができなかったか。

（事務局）

- ・ 手続き・周知方法については、市で定める手続き要綱に則り実施しており、広報誌、ホームページ、また市公式 LINE での配信もあり、多くの方の目には触れていると考える。その上で、公共交通について言えば、各地区に協議会があるので、そうしたところへの働きかけをしていくことが考えられる。今回意見がなかったことを踏まえ、次回パブリックコメントの際の検事項討としたい。

（委 員）

- ・ 計画は、全体としてはボリュームがあるが、資料編を後半に寄せて、計画編を前半にまとめるなどの見やすさも考慮されていた。一番懸念されるのは、市民が公共交通にあまり関心を持っていないということだが、決してそうではないと思う。パブリックコメントが日本に根付いていないということもあるかもしれないが、できる限り市民の意見を踏まえていくことが大事であり、そうなるように今後も取り組んでほしい。

イ 地域公共交通確保維持改善事業に係る計画変更認定申請について

- ・ 事務局より資料 4 に基づき説明が行われ、全会一致で承認された。

〔質 疑〕

なし

ウ 令和 8 年度蒲郡市地域公共交通会議事業計画、予算（案）について

- ・ 事務局より資料 5 に基づき説明が行われ、全会一致で承認された。

〔質 疑〕

なし

エ 幹線バスの再編検討について

- ・事務局より資料6に基づき説明が行われ、全会一致で承認された。

〔質 疑〕

(委 員)

- ・ 路線・運賃協議が令和8年度中とあるが、決めるところまで想定しているのか、スケジュールについてももう少し詳しく説明をいただきたい。

(事務局)

- ・ 令和8年度12月の公共交通会議までに路線・運賃について承認をいただければ、令和9年度の当初予算に計上し、令和9年4月から準備を進め、令和9年10月から運行開始という段取りを考えている。

(委 員)

- ・ 早速計画に位置付けられた見直しを進めるものだと認識する。民間路線が厳しい中、行政が関与していくということで、幹線バスだけでなく支線バスの見直しも当然関わってくると思う。全体像が見えてくるとよいが、どう考えているか。

(事務局)

- ・ 幹線バスの見直し後、或いは並行して支線バスの停留所位置等の見直しをしていきたい。幹線に対して支線をどのように結節していくか、広域的な位置づけを考えながら、地区協議会と連携して見直ししていきたい。

(委 員)

- ・ 作業としてはそのような形になると思う。全体像が見えた中で、幹線と支線の説明があるとよい。幹線も支線も見直していくと、運賃の見直しや乗り継ぎなども関わっていくのか、具体的に見直していくことをもう少し説明いただきたい。

(事務局)

- ・ これまでは幹線と支線の役割分担と言いつつも、競合の回避を前提にルートなど重複しないよう調整してきたため、支線バスについて住民ニーズに基づいて目的地に行けるようにするなども、あわせて検討していければと思う。

接続に関しては、市民病院もあり市街地循環線の利用が多いが、東西の線からの乗り換えが必要になってしまう。運転手不足など見直しの経緯を踏まえれば分割はやむを得ないところであり、蒲郡駅で円滑に乗り継ぎできるような運用を検討している。乗り継ぎに時間がかかり実際には利用できないということがないようにしたい。

(委 員)

- ・ 再編後は、幹線バスと支線バスが一体的に運行でき、乗り継ぎは生じるが、例えば運賃は統一的になり乗り継ぎで運賃が発生しないなど、利用者にとっては幹線も支線も同じような交通体系となるというようなことを想定しているか。

(事務局)

- ・ 名鉄バスとの協議が調えば、均一料金にするなどもできると考えている。また、支線バスのルートの自由度が向上することもあり、形原地区と西浦地区の一体化の検討や三谷地区の市民病院への延伸の検討も可能になると考える。

(委 員)

- ・ 基本的にその方向性でよいと思う。ただし、自由にルートが開けるからといって、各地区から市民病院や蒲郡駅に接続してほしいというのが叶うわけではないと思う。また、コストがかかりすぎることも避けるべきであるという理解でよい。

(事務局)

- ・ そのとおり。

(委 員)

- ・ エリア別、均一、ゾーン制運賃なども考えられ、ちょっと乗り継ぐ必要はあるがどこにでも行ける、病院に、市役所に、場合によっては温泉に行けるなど、市民の方々が好きなところに行けるという感覚になるよう頑張してほしい。

(委 員)

- ・ 再編案について市から説明があった。協議をさせていただいた。

会社の現状としては、乗務員不足が続いており、蒲郡地区の路線についても補助をもらい路線を維持している。

経費が年々増える中、減便を実施してきた。本数も非常に少なくなり利用しにくい。今後この傾向が続くと、利用者に不便を強いるだけになってしまう。何年か先、乗務員確保がままならなくなる前に、市主導でなんとか残す案を考えようということで、一緒に協議した。

民間事業なので、100 円、200 円というわけにはいかず、適正な運賃をいただいて成り立っている。くるりんバスで行けるなら名鉄バスに乗らないということになると、企業として立ってられない。今後そうならないように条件を付けてやってきた。

今後路線を維持していくため、せつかく走っているくるりんバスを駅や幹線バスに接続することで、市民の利便、移動の足を守るということで、市主導で再編案を検討しようというのが背景。

様々な条件を考慮し市民の意見を反映された案だとお見受けする。いろいろ検討された中での再編案だと認識している。今後、少しでも市民の足を守っていくということで、協議に参加させていただく。

(委 員)

- ・ 県の計画においても、単なる廃止になるのか再編になるのかで変わってくところがある。情報提供いただきながら進めていきたい。

(事務局)

- ・ コミュニティバス化ということになれば、手続き的には路線の廃止と新設ということになると考えている。情報共有・相談しながら進めていきたい。

(5) その他

(委 員)

- ・ 支線バスの報告。昨年度は順調に増加したが、今年度は1割ほど減少見込み。減少理由としては、高齢者が多く、動けなくなったや施設に入ったということを耳にした。次の世代がうまく利用するためにどうアプローチしていくか考えていきたい。

(委 員)

- ・ 先日の地区協議会では、報告事項にもあった停留所変更についてなどの協議をした。地区では、子どもの数が減り子ども会がなくなってしまう。

(委 員)

- ・ 1便あたり1人ちょっとという現状に対して、なんとか2人に増やせるようお願いしており、改善していきたい。

(委 員)

- ・ 寒くなってから特に乗車人員が減ってしまっており残念。

(委 員)

- ・ 形原地区との共同運行については地区協議会でも前向きな意見を確認した。
利用方法について、単に病院やスーパーに行くというものだけでなく、友達の家や集会に行くなどの使い方もあるということで、町民にPRしたい。例えば、無料乗車のキャンペーンで利用者の増加を図るなどの取組みも考えたい。

(委 員)

- ・ 運行開始して間もないが、まずは1便当たりの利用者を増やしていきたい。会議でも住民に体験乗車してほしいと声掛けするが、なかなか浸透していない。老人クラブにイベントを考えてもらうとか、喫茶店にいくときに使うなどの取組みに繋げていければと思う。

(市 長)

- ・ 計画案の承認をいただいたので、新年度からも皆さんのご意見をもとに、計画を遂行していきたい。ただし、満足度は今回の調査で悪化しており、利便性を上げていく取組みをしている中で不満が増えていることに対して、重く受け止めなければならないと思う。

幹線バスの再編検討も、利便性をあげていく一つの観点だと思う。名鉄バス様からも力強い言葉をいただいた。松本先生からもわかりやすい整理をいただいたので、皆様と検討していきたい。

(事務局)

- ・ 次回の地域公共交通会議について、6月頃を予定、正式な開催案内を後日送付するとの連絡を行い会議は終了した。